

## 第19回名古屋大学博物館特別展記録 絹谷幸太・創知彫刻

### Record of 19<sup>th</sup> Nagoya University Museum special exhibition “Kinutani Kota’s Stone Sculptures”

足立 守 (ADACHI Mamoru)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学 Ph.D. プロフェッショナル登龍門推進室  
Program for Leading Graduate Schools “Ph.D. Professional”: Gateway to Success in Frontier Asia, Nagoya University, Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

場所：名古屋大学博物館（前庭、玄関テラス、2階常設展示室、3階展示室）

会期：2014年7月24日（木）～11月29日（土）

主催：名古屋大学博物館

#### 特別展の概要

2014年7月24日から11月29日（土）まで、彫刻家絹谷幸太の石彫25点が博物館前庭、玄関テラス、2階常設展示会場の一角、3階展示室で展示され、12,104名の来館者があった。創知彫刻展の企画は足立を立て、ポスター（図1）・チラシ・パネル等を作成し、絹谷が石彫作品の制作を行った。会期中（日曜と月曜、お盆休みを除く90日間）に、8回の特別講演会、3回の博物館コンサート、さらに10月18日（土）の第10回名古屋大学ホームカミングデイには、石割り体験イベントとギャラリートークが行われた。

#### 彫刻展の背景

名古屋大学博物館は、第二期中期計画の中で「博物館の機能と活動を充実させる」を掲げ、その具体的な施策として、「社会に開かれた大学の窓口として、本学の歴史や全学の研究教育の成果を常設展示、特別展、企画展、特別講演会等によって広く公開するとともに、地域博物館や教育委員会等と連携して次世代教育・生涯教育を進め、博物館友の会を発展させる。また、野外観察園の一般公開やサテライト展示、博物館コンサートを実施し、キャンパスミュージアム構想を推進する。さらに、大学や社会から負託された学術資料を整理し研究しつつ、次世代に継承する」と記されている。キャンパスミュージアム構想は博物館創設時から考えていたが、中味については、野外観察園が整備された少し後に出版された「名古屋大学野外観察園の生物」（吉野・手塚、2003）の‘あとがき’にほんの少しだけ書いておいた。



図1. 第19回名古屋大学博物館特別展「絹谷幸太・創知彫刻」のポスター。

このキャンパスミュージアム構想推進の一環として、2008年2月にキャンパスミュージアムマップを作成し（図2）、さらに2012年10月のホームカミングデイに合わせて、博物館前庭と玄関サロンに絹谷の石彫8点を設置し、大学構成員や市民に憩いの空間を提供する試みを行ってきた。今回の創知彫刻展はその延長線上のもので、準備に約2年を要した。キャンパスミュージアム構想の根幹には、ミューズセラピー（muse therapy）という考え（Adachi, 2003）がある。この考えは、本物のいい標本、音楽・絵などの芸術、自然などには人の心を癒す効果があるというもので、ストレスの多い現代社会ではとくに重要となっている。キャンパスミュージアム構想には、総合大学の名古屋大学で最も欠けている芸術面を少しでも補うことができないようにしたいという願いが込められている。



図2. 2008年2月に発行されたキャンパスミュージアムマップ（表紙の一部）。

## 創知彫刻の特徴と特別展の準備

今回の展示は普通の彫刻展とは違って、ただ作品を見るだけではなく、手で作品に触れたり、彫刻に乗ったり、中に入ったりすることができた点に大きな特徴がある。つまり、自然の一部である石に触ったり、軽く叩いたり、においを嗅いだり、“五感のすべ

てを使って素材への理解を深めながらアート作品を鑑賞できる石彫”を目指した展示であった。こうした素材の石を理解し、石彫との対話ができるような彫刻を創知彫刻と呼んでいるが、根幹には“自然に学ぶ”の考え（足立、2014）があり、その基本コンセプトは、彫刻家の絹谷と岩石専門家の足立の何回もの話し合いから生まれた。また、「石は生きている：The stones are alive」から始まる「制作者からのメッセージ」（図3）は、絹谷、足立、そして博物館展示エキスパートの Giles Clarke 名古屋大学参与（元ロンドン自然誌博物館展示・教育部長）の三人の長時間にわたる議論から誕生した。


創知彫刻展のポスター・チラシ・パネルは足立が作成した。ポスターの第一次案では、絹谷のタガネの先端部分がカットされ、タガネが円の中に納まっていた（図4左）が、絹谷の目指す創知彫刻は従来の彫刻の殻を破るという意味合いを持たせ、タガネの先端部分を円の枠（＝殻）から外に出るように修正し（図4右）、最終案とした。このわずかな修正が重要で、タガネの先端が円の外に出ることにより、ある種の“だまし絵”のように立体感が増し、躍動感が伝わるポスターとなった。

### 絹谷幸太・創知彫刻

#### Kinutani Kota's Stone Sculptures

<制作者からのメッセージ>

石は生きています。  
 石は地球のできごとを記憶しています。  
 あなたは石のメッセージが分かりますか？  
 石に触れて、耳を当て、においをかいで、  
 石に話しかけてみませんか？  
 石はみなさんと話をしたがっています。



The sculptor says:

*"The stones are alive.  
 They remember the history of the Earth.  
 Can you find their message?  
 Touch them, feel them, listen to them,  
 smell them, and communicate with them.  
 They want to talk to you."*

図3. 制作者（彫刻家絹谷幸太）からのメッセージ。



図4. 絹谷幸太・創知彫刻ポスターの変更点。





図5. 絹谷幸太・創知彫刻作品 その1 (括弧の中は素材の岩石名と産地): a) マグマの合掌 (赤色花崗岩, ブラジル); b) 夢舞台Ⅰ (白色花崗岩 = 黒雲母花崗岩, 茨城県); c) スライダーⅡ (白色花崗岩); d) 背後との関わり (白色花崗岩); e) スライダーⅠ (白色花崗岩); f) 夢と感謝Ⅱ (白色花崗岩); g) 愛 (オレンジ色石灰岩, フランス); h) 日本の愛 (白色花崗岩); i) あなたのの中の天使に会おう (白色花崗岩, 黒い部分は泥岩のゼノリス); j) 背後との関わり 1994 (ガブロ, ナミビア); k) 夢と感謝Ⅰ (白色花崗岩); l) 石と雲と宇宙の繋がり (白色花崗岩 + ステンレス).



図6. 絹谷幸太・創知彫刻作品 その2: m) 夢舞台Ⅱ (黄褐色石灰岩 = トラバーチン, イラン); n) 夏の白い雲 (大理石, ポルトガル); o) 友情の握手を贈る (赤色花崗岩ほか, インドほか); p) 龍籠 (白色花崗岩); q) Brazil 2004-II (青色花崗岩, ブラジル); r) 流星 (青色花崗岩); s) 永遠の愛 (オレンジ色石灰岩); t) 未来を瞬時に予測する石 (大理石, ギリシャ); u) 天地の心 (青色花崗岩); v) 飛翔鳳凰 (ガーネット花崗岩, ブラジル); w) Brazil 2004-I (青色花崗岩); x) 天使の浴槽 (オレンジ色石灰岩).



### 石彫の配置と展示パネル

25 作品（図 5, 6）のうち、建物への搬入が難しい大きな作品を中心に博物館の前庭に 14 点、博物館テラスに 2 点、2 階展示室に 1 点、3 階展示室に 8 点が設置された。3 階展示室（図 7）の壁面には、素材の岩石の顕微鏡写真解説パネル（図 8）、石切り場の写真、ブラジル移民 100 周年を記念して 2008 年に絹谷氏がブラジル・サンパウロに設置したカルモ彫刻公園の制作ビデオ、彫刻に使われたハンマーとタガネ、岩石プレパラート観察用の偏光顕微鏡を配置し、石彫の制作過程が判るように工夫した。



図 7. 3 階展示室風景（小作品中心）。



図 8. 解説パネルを見る濱口総長（左奥の映像画面はカルモ彫刻公園の制作ビデオ）。

展示パネル（図 9–13）は、彫刻に使われた主要な 4 種類の岩石（白色花崗岩、赤色花崗岩、青色花崗岩、石灰岩）の特徴と生成環境が判るように、岩石の偏光顕微鏡写真をつけた解説版にした。ブラジル東端産の赤色花崗岩（通称 Red Dragon）については、花崗岩中に数多く存在する断層の成因を中生代ジュラ紀の Gondwana 大陸分裂に伴う地殻変動と考えたパネル（図 14, 15）を作成した。さらに、今回の作品中最も大きなサイズの彫刻「マグマの合掌」の制作過程が分かるパネル（図 16）も作成した。

### < 石 の 解 説 >

絹谷幸太・創知彫刻には、世界各地の石が使われています。日本、中国、インド、イラン、ギリシャ、イタリア、フランス、スペイン、ポルトガル、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、アメリカ合衆国、ブラジル、アンゴラ、ナミビアなどです。これらの国の石切り場から切り出されたマグマ起源の花崗岩（御影石）と海底で堆積した石灰岩が主要な原石になっています。

絹谷作品では、ブラジルの石が多いことが一つの特徴で、赤色花崗岩（通称 Red dragon）や青色花崗岩がその代表です。日本の石では茨城県の稲田花崗岩がよく使われています。以下に、これらの代表的な石材について解説しておきます。

図 9. 彫刻に使われた石材。

\* 25 作品のうち 1 点は室内展示用に制作されたもので、前庭での展示では制作意図が十分に伝わらなかったの  
で、写真リストからは外した。



## 稲田花崗岩

(白色花崗岩; 6000万年前; 茨城県産)

おもに、石英・斜長石・カリ長石・黒雲母でできている。石英・斜長石・カリ長石は鉄を含まないので全体が白っぽく見える。黒雲母は、右上の研磨面では黒い斑点に、下の偏光顕微鏡写真では茶色に見える。

稲田花崗岩のマグマは、上昇してきた時に、地下に存在していたジュラ紀の砂岩や泥岩をマグマの中に取り込んだ。このため、稲田花崗岩には、砂岩や泥岩の様々なサイズの破片・ブロックが存在することがある。



図 10. 白色花崗岩の解説パネル.

## 赤色花崗岩

(通称 Red Dragon: 約6億年前?, ブラジル東部産)

おもに、石英・カリ長石・斜長石・黒雲母(緑泥石化)からできているが、カリ長石や斜長石に酸化鉄がしみ込んで褐色(左下の偏光顕微鏡写真)になっているため、石全体が赤褐色をしている。左下の写真で、白く見える鉱物が石英、緑色の鉱物が緑泥石。

赤色花崗岩中の黒い筋(右上の写真)は、中生代ジュラ紀にパンゲア超大陸が分裂した時にできた“断層(破碎帯)の化石”である。縦方向の黒い筋が横方向の筋をずらしている。黒い部分の花崗岩は破碎されて細粒になっている。また、破碎帯を通過してきた熱水から生成した緑泥石という暗緑色の鉱物が多く存在するので、黒く見える。

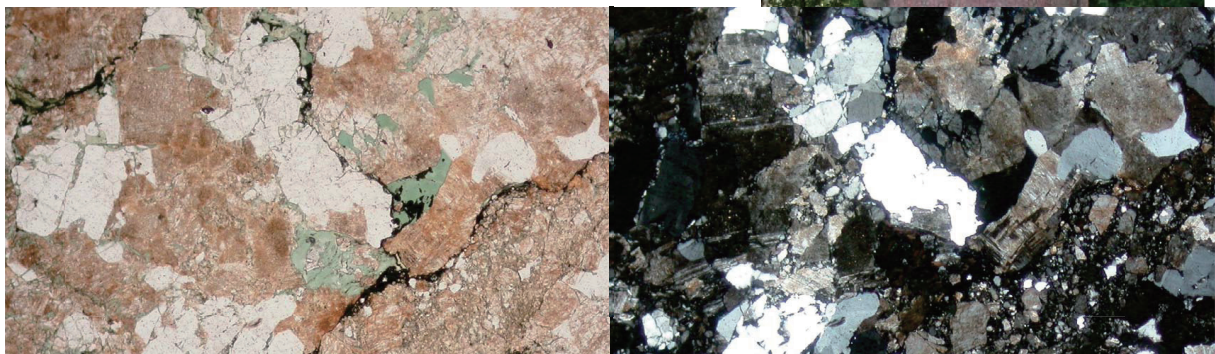


図 11. 赤色花崗岩 (Red Dragon) の解説パネル.



## 青色花崗岩

(ソーダライト花崗岩:ブラジル東部産)

おもに、ソーダライトとカリ長石からできている。青色(右上の写真)のソーダライトの化学式は、 $\text{Na}_8[\text{Al}_6\text{Si}_6\text{O}_{24}]\text{Cl}_2$ でラピスラズリ\*と少し似ているが、硫黄(S)を含まないので、ラピスラズリのような群青色にはならない。偏光顕微鏡で見ても無色で青くない(左下の写真)が、等軸晶系の鉱物なので、直交ポーラーでは常に真っ黒(右下の写真)。

産地がブラジル東端なので、同じ石が中央アフリカのカメルーンにも産出するかもしれない。

\*ラピスラズリの化学式

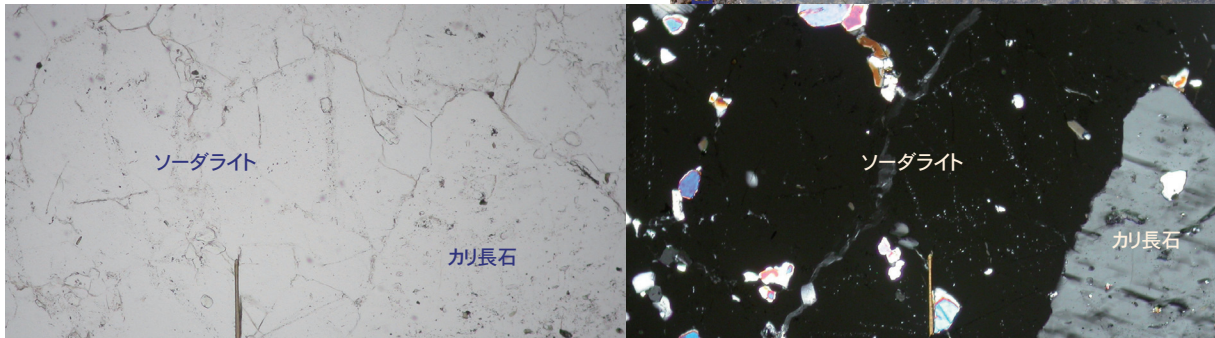


図 12. 青色花崗岩の解説パネル.

## 石灰岩(大理石)

(オレンジ色、フランス産; 白色、ギリシャ産; 黄褐色、イラン産)

石灰岩は方解石( $\text{CaCO}_3$ )という鉱物の集合体で、カルシウムの殻をもった生物の死骸が海底で堆積してできることが多い。こうした石灰岩には、当時の生物の化石(左下の写真ではジュラ紀の有孔虫)が含まれることがあるので、時代が分かる。

一方、生物起源ではなく地下の熱水から方解石が沈殿してきた石灰岩(例えば、右のオレンジ色石灰岩)には、化石は含まれない。このオレンジ色石灰岩は鉄分が多いので、偏光顕微鏡で見ても(下中の写真)うす茶色をしている。茶色の筋(←)の部分はとくに鉄分が多い。右上2つの作品は同じオレンジ色石灰岩だが、屋外に設置してあった下の作品は表面が雨(酸性雨)で風化して、白っぽくなっている。

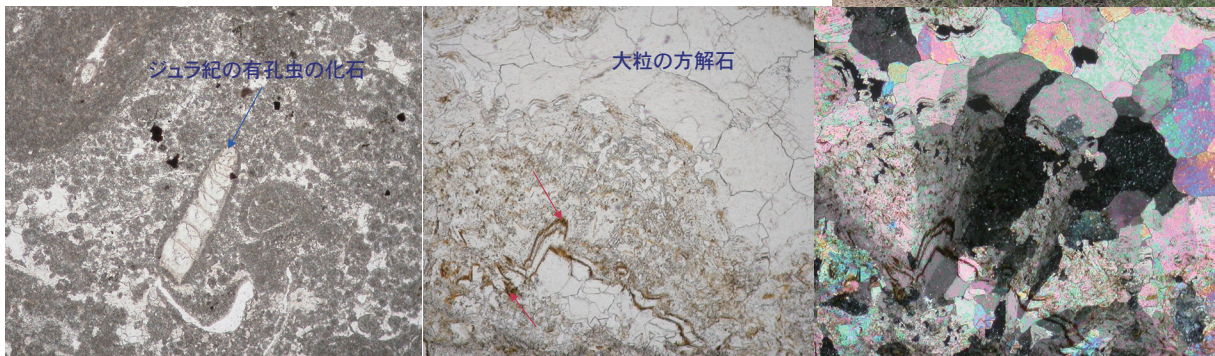


図 13. 石灰岩の解説パネル.



## ブラジルの赤色花崗岩や青色花崗岩の片割れはどこ？

パンゲア超大陸が分裂する前は、南米とアフリカは隣接していたので、ブラジル東部の赤色花崗岩や青色花崗岩は中央アフリカのカメルーンにあるかもしれません。逆にアンゴラの灰黒色ガブロやナミビアの黄色花崗岩と同じような石は、ブラジル南部で見つかるかもしれません。石材の故郷から、大昔の地球の歴史を考えるのも“創知”（科学と芸術の融合）です。



図 14. 赤色花崗岩・青色花崗岩の片割れはどこ？

## 約2億年前の南米とアフリカ

現在のプレートテクトニクスは、ドイツのウェゲナーの大陸移動説(A. Wegener, 1912)が基になっています。ウェゲナーは南米の東海岸とアフリカの西海岸の海岸線がよく似た形をしていることに気づいて、もともとは一つであった“パンゲア超大陸”の一部であった南米とアフリカの両大陸が離れて今の南大西洋ができた、つまり「大陸が移動した」と直感しました。

ウェゲナーは当時の地質学の様々なデータ(例えば、古生代の氷河堆積物、ゴンドワナ植物化石、中生代のトカゲの化石の分布など)を研究して大陸移動説を提唱しましたが、受け入れられませんでした。大陸移動説は、1960年代後半の地磁気の研究などから復活し、プレートテクトニクスに生まれ変わりました。

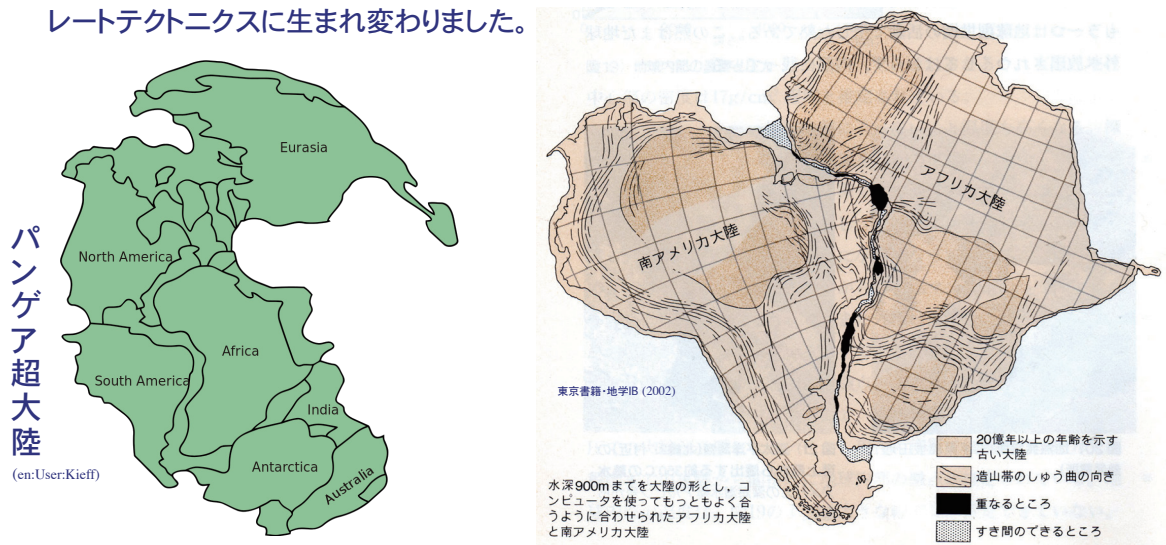


図 15. ジュラ紀に起こったゴンドワナ大陸の分裂.



## 石彫「マグマの合掌」のできるまで



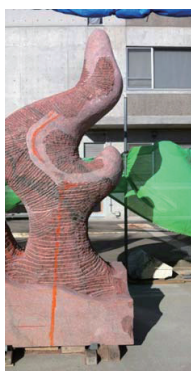
自然の中(石切り場)で  
構想を練る



石 (Red dragon) を選ぶ



石のカット(荒切り)



カットと研磨



仕上げ作業



作品の設置



設置完了

図 16. 彫刻「マグマの合掌」の制作と設置プロセス.



図 17. 特別講演会の講演者 (上段：左から足立, 絹谷, 南城; 中段：左から島田, 栗原, 谷口; 下段：左から古川, Clarke と通訳の門脇助教).



会期中には、創知彫刻特別展に関連する 8 回の講演会（表 1）が開催され、様々な分野の専門家が講演を行った（図 17, 18）.

(1) 7月30日(水): ミューズセラピー (Muse therapy) とキャンパスミュージアム (足立 守: 名古屋大学 Ph.D. 登龍門推進室特任教授)
(2) 9月 3日(水): 創知彫刻にかける夢 (絹谷幸太: 名古屋大学博物館研究協力者)
(3) 10月 1日(水): 美術館における彫刻展示 (南城 守: 奈良県立美術館学芸員)
(4) 10月29日(水): 創知が世界を救う (島田久仁彦: 環境省参与)
(5) 11月 5日(水): 博物館の楽しみ方 (栗原祐司: 独立行政法人国立文化財機構本部事務局長)
(6) 11月12日(水): 名古屋大学キャンパスマスタープラン (谷口 元: 名古屋大学施設・環境計画推進室特任教授)
(7) 11月19日(水): 祖父古川為三郎の芸術への想い ―古川美術館の収蔵品から― (古川為之: 古川美術館館長)
(8) 11月26日(水): 大学博物館の昔と今 (Giles Clarke: 名古屋大学参与)

**大小25石の彫刻  
綱合さん作品展**

名古屋大博物館  
名古屋市千種区不老町の名古屋大学博物館で24日、彫刻家・綱合幸太さん(40)の「創知彫刻」展が始まった。前庭や特別展示会場に、大小約25の石の彫刻が設置され、自由に触れられる。綱合さんは「石に触れて、耳を当てるにおいをかいで石に話しかけてみませんか」と来場を呼び掛けている。

前庭で目を引くのは、高さ約2・5メートルの新作「マクマの合掌」だ。約6億年前のフラジル筆赤色花こう岩から制作した。初代館長の足立守彦氏は「作品に見て取れる断層から、南米デフリカが大陸だった歴史も思

い起こせむ」と説明する。また、一塊の石を二つに割って制作した「スライダー・II」は滑り台のような造りで、観客さんは子供供たちに乗って遊んでほしいと話している。

綱合さんは、東京芸術大名誉教授で洋画家の綱合幸三さん(71)



の息子で、東京芸大大学院修了後、2003年にフラジル留学し、08年にはブラジル日本文学振興会理事を務める。本移民100周年記念モニュメントをサンパウロ市に設置して以来、海外での活動が続いている。

11月29日まで。無料。  
**【山田泰生】**



名大博物館、関連の講演も

名古屋大学博物館（名古屋市中種  
区）で特別展「創知彫刻」展が開催  
されている。彫刻家の絹谷幸太さん  
の大小様々な25作品が並ぶ。入場無  
料で11月29日まで。

絹谷さんは「ブリル留学を経験した彫刻家で、今回の展示ではブラジルや日本、米国など様々な国の石を使った作品が並ぶ。すべて触ったり座ったりできるのが特徴だ。」

期間中は関連講演もある。これまでに同大の特任教授や博物館の研究協力者らが演壇に立った。

初代博物館館長で展示を企画した足立守・特任教授は「ミュージズセラピーとキャンパスミュージアム」と題して話した。地質学が専門の足立さんは、音楽や絵画、自然には人の心を癒やす力があることなどに着目して「ミュージズセラピー」という者え方を提唱しており、博物館でコンサートを始めた経緯などを

語った。  
足立さんも絹谷さんも「見  
て、触って、におって、五感を  
使って石と対話を」と呼びかけ  
ており、足立さんは「夏に熱か  
った石が秋になると冷たくな  
る。そんな季節感も感じてほし  
い」と話した。

に、たまたま1月未開で博物館の  
楽しき方々や彫刻の魅力などに関  
する講演が目白押しだ。10月18  
日には、絹谷さん本人によるギ  
ャラリートーク「石に触れて石  
と会話をしてみよう」も予定さ  
れている。日曜、月曜を除く午前  
10時〜午後4時開館。問い合わせ  
は博物館（052・789・  
5767）へ。（山本宗彦）

いずれも午後2時開演予定



⑤滑り台のような作品⑥大小様々な作品が並ぶ展示会場＝いずれも名古屋大学



■今後の講演予定	日程	テーマ	講演者
	10月1日	美術館における彫刻展示	南城守(奈良県立美術館学芸員)
	10月29日	創知が世界を救う	島田久仁彦(環境省参与)
	11月5日	博物館の楽しみ方	栗原祐司(国立文化財機構本部事務局長)
	11月12日	名古屋大学キャンパスマスタープラン	谷口元(名大施設・環境計画推進室長)
	11月19日	祖父為三郎の芸術への想いー古川美術館の収蔵品からー	古川為之(古川美術館館長)
	11月26日	大学博物館の昔と今	Giles Clarke(名大参与)

■今後の講演予定

— 109 —

(1) 足立は第1回目の講演として、創知彫刻展を企画した意図とミューズセラピー (muse therapy) の考えに基づくキャンパスミュージアム (campus museum) について、(2) 絹谷はイタリアのベネチアでの彫刻との出会い、彫刻の道に進む大きなきっかけになった先生との出会い、今後の展望とくに創知彫刻への夢について、(3) 南城は美術・藝術について美と藝という漢字の語源に触れながら、美術館での彫刻展開催の難しさについて、(4) 島田は国際交渉人として創知とは何か、創知が交渉にどのように役立つかについて、(5) 栗原は‘博物館大好き人間’として、これまで収集した博物館グッズを紹介しながら、博物館の多様な楽しみ方について、(6) 谷口は名古屋大学東山キャンパスの過去・現在・未来の姿を紹介しながら、キャンパス空間の開発について、(7) 古川は50年前(1964年)に古川図書館(現在の古川記念館)を名古屋大学に寄附した祖父・古川為三郎の人となりについて、(8) Giles Clarke は、門脇博物館助教の通訳により、イギリスの大学博物館の歴史を振り返りながら、名古屋大学博物館の生き残り戦略について、講演した。どの講演も各人の実体験に基づく貴重な話で、聴衆に深い感銘を与えた。

### 博物館コンサート (NUMCo)

名古屋大学博物館では、博物館 (museum) と音楽 (music) の語源がともにギリシャ語の Muse に由来することから、「本物の標本で囲まれた展示空間で生演奏を楽しむ」博物館コンサート (NUMCo = Nagoya University Museum Concert) を2001年から始めた。

彫刻展の会期中には、3回のNUMCoが開催され、8月8日には名古屋大学附属高校ブラスバンド部、9月17日には辺見亜矢 (フルート) と荒木まどか (ハーブ)、11月8日には名古屋大学オーケストラが演奏を行い、約600人の聴衆が演奏を楽しんだ (図19)。



図19. 演奏中の名大附属高校ブラスバンド部。

### ホームカミングデイ・イベント

2014年10月18日(土)の第10回名古屋大学ホームカミングデイでは、石割り体験とギャラリートークが行われた。石割り体験は絹谷の指導で行われ (図20)、横2.5m、重さ約5トンの巨大な花崗岩の原石に鉄のクサビを打ち込んで割る体験イベントでは、何人かが交代で巨石にクサビを打ち込



図20. 石割り体験イベントで、ハンマーの使い方を指導する絹谷博物館研究協力者。



図21. 「天使の浴槽」に使われたオレンジ色石灰岩の解説をする足立特任教授。



み、最後に原石がドンという鈍い音をたてて割れたときには、約 50 人の参加者からオーッという歓声が上がった。参加者は石彫の制作過程の第一歩を知るとともに、石彫の制作が危険と隣り合わせで大変だということを体感していた。

ギャラリートークでは、足立が素材岩石の特徴と成因、自然が作り出した“石の目”の見方、石から読み取れる地球の歴史について解説（図 21）をし、続いて絹谷が石彫の制作過程のエピソード、作品に込めた思いについて話した。

### 来館者の特徴

この特別展では、彫刻に自由に触れたり、叩いたり、乗ったりすることができたので、来館者とくに子供に人気があり、リピーターの数も多かった。作品に乗って遊ぶ子供の写真（図 22）を撮る親子連れも多く、「石と話せたような気がする、石に癒された、東京から見に来たかいがあった、こうした彫刻展ができる名大博物館は素晴らしい、博物館の周辺だけ名大とは雰囲気が違う気がする」といった感想が数多く寄せられた。こうした市民の声は、博物館が目指す“市民に憩いと思索の空間を提供する”キャンパスミュージアム構想とよく合致するものであった。

来館者には、安倍昭恵首相夫人（図 23）、渡辺捷昭トヨタ自動車相談役、神田真秋前愛知県知事などの芸術に理解のある VIP の姿も多く見られた。



図 22. 彫刻で遊ぶ子供たち。



断層のでき方について足立特任教授に質問する安倍首相夫人

ブラジルの赤色花崗岩で制作された大作『マグマの合掌』の前では、絹谷氏が「この赤い石を眺めながら、日本と近隣諸国との関係が1000年後も平和であることを願って作成しました」という彫刻に込めた熱い思いを語った。足立特任教授は、赤色花崗岩の中の黒い筋は約2億年前に南米大陸がアフリカ大陸から分離した時の地殻変動によってできた。断層の化石」と解説。昭恵夫人は花崗岩と断層について質問し、断層によってできた石の面に手を当てて石の感触を確かめていた。青色花崗岩の彫刻では、絹谷氏がブラジルでこの石を彫っていた時に、青い蝶の大群が石に集まってきたという体験談を紹介し、さらに「石には宇宙の音が詰まっている、石に触れるとその声が聞こえることがある」という話になった時、昭恵夫人はすかさず「絹谷さんは宇宙人だから」と間の手を入れ、展示会場が笑い声に包まれた。足立特任教授からは、青色花崗岩はひじょうに珍しい石であること、石が青いのはソーダライトという鉱物の含まれていること、ソーダライトは青絵の具の顔料になるが、ラピスラズリと違って鮮やかな群青色にはならないという説明があった。これに関連して、レオナルド・ダヴィンチの名画「最後の晩餐」には、青絵の具としてラピスラズリがキリストなどに多く使われているが、裏切り者のユダだけにラピスラズリが使われていないというイタリアの修復研究の解説があり、ダヴィンチが「最後の晩餐」に込めたメッセージは一体何であったのかという話で盛り上がり、創知彫刻の見学は終了した。

### ■名古屋大学博物館

### 安倍昭恵首相夫人が絹谷幸太氏の石彫を見学

10月27日の午後、安倍昭恵首相夫人が名古屋大学博物館を訪れ、開催中の特別展「絹谷幸太・創知彫刻」の石彫を約1時間かけてゆつくりと鑑賞。彫刻の説明は絹谷幸太氏が、石材の解説は元博物館長の足立守氏（名古屋大学で「プロフェッショナル登龍門推進室特任教授」が行った。

図 23. 創知彫刻を見学中の首相夫人。「文教ニュース 平成 26 年 11 月 3 日（2315 号）48 頁、無断転載・複写不可」

## 謝 辞

特別展の開催にあたり、平成 26 年度総長裁量経費「絹谷幸太・創知彫刻によるアートと科学の融合研究」および横井太氏からの寄付金「キャンパスミュージアム構想における岩石彫刻の研究」の支援を得た。記して深く感謝する。絹谷幸太・創知彫刻の作品の写真（図 5, 6）は、名古屋大学博物館友の会写真サークルの丹慶勝市氏に撮影していただいた。

## 引用文献

Adachi, M. (2003) ‘Muse therapy’ as a new concept for museums. *Museologia*, **3**, 117–120.

足立 守 (2014) 自然に学ぶ. *ESD 自然に学び 大地と生きる* (宗宮弘昭・南 基泰 編), 中部大学ブックシリーズ *Acta*, **23**, 12–27. 風媒社.

吉野奈津子・手塚修文 (2003) 名古屋大学野外観察園の生物. *名古屋大学博物館インフォメーションシリーズ*, **1**, 80p.

(2014 年 10 月 15 日受付, 2015 年 1 月 6 日受理)